

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 28 日現在

機関番号：32202

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2009～2011

課題番号：21720328

研究課題名（和文） 宮座組織における長期記帳史料の類型と機能に関する研究

研究課題名（英文） A study on historical types and functions of long-term archives in "Miyaza" systems

研究代表者

渡部 圭一(WATANABE KEIICHI)

自治医科大学・看護学部・非常勤講師

研究者番号：80454081

研究成果の概要（和文）：本研究では、歴史民俗学的な視点から「頭役帳」の特徴を明らかにすることで、これまで等閑視されてきた宮座組織における長期的な帳簿（記帳史料）に対する研究の進展を図った。

研究成果の概要（英文）：From the viewpoint of historical folklore, this paper clarified the characteristics of "Touyakuchou" and developed the study of long-term archives in Japanese local community, which has been neglected so far.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	700,000	210,000	910,000
2010 年度	700,000	210,000	910,000
2011 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,900,000	570,000	2,470,000

研究分野：文化人類学・民俗学

科研費の分科・細目：民俗学

キーワード：宮座、頭役祭祀、宮座文書、帳面・帳簿論、長期記帳史料、規約・座掟

1. 研究開始当初の背景

日本の伝統的な祭祀組織（宮座）は、日本村落のなかでもきわめて古く遡る帳簿史料を豊富に有している。とくに宮座の帳簿（記帳史料）は、行政文書とは異なる儀礼・信仰系の史料であり、現在まで数百年以上にわたって現用されてきた点に最大の特徴がある。にもかかわらず宮座の帳簿は、その膨大さ・複雑さもあって、これまで十分に取り上げられておらず、そのポテンシャルの正当な評価を待っている段階にある。

2. 研究の目的

複雑多岐にわたり、いまなお不明な点を多

く残している宮座の記帳史料について、本研究は初めてこれを正面から取り上げた。長期記帳史料の様式と機能を把握することで、今後の研究の指針となる記帳史料の類型を提案すると同時に、その実際の機能をふまえ、宮座の権威システムにおける文書類型の意義を明らかにした。

3. 研究の方法

本研究では、対象とする祭祀組織の記帳史料について、全点・全丁の撮影を行い、あわせて集落内に伝存する他の記帳史料も含めたセンサ的調査を実施する。これにより、従来は断片的な分析しかなかった宮座の帳面の全貌に対し、精度

の高い考察を施すことが可能になった。

4. 研究成果

本研究では以下の数ヶ地点を研究対象とした。

(1)典型的な頭役祭祀の事例である近江湖南（滋賀県野洲市大篠原）の事例では、野洲市歴史民俗資料館の協力を得てセンサスの撮影を完了するとともに、2009～2011年にかけて、現在進行形の頭役選定における帳面の活用、人選基準の変化、神社・自治会の関与のありかたについて詳細な聞き取りを行った。この結果は「頭役祭祀における聖と俗」（日本民俗学会第63回年会、於：滋賀県立大学、2011年10月）として口頭報告し、さらに論文化を準備中である。

(2)一方、近畿地方の頭役制事例を補完するための調査として、近江湖東に位置する大宝神社（滋賀県栗東市継）文書の分析を行なった。2010年度に引き続き萩原龍夫旧蔵資料研究会・明治大学博物館の協力のもと、この成果を「萩原龍夫、近江を歩く一寛文十三年『天王祭礼引付帳』と大宝神社文書一」（萩原龍夫旧蔵資料研究会編『村落・宮座研究の継承と展開』岩田書院、2011年9月）として公表した。また野洲市三上でも神事の一部の観察を実施し、その結果を「書評 真野純子著『宮座祭祀儀礼論』（『京都民俗』第28号、2011年3月）に反映させた。

(3)さらに「頭役祭祀」系の史料・儀礼のモデルの一般化を目的として岡山県山間部の宮座の調査に着手し、真庭市・新見市・美咲町の3地点の記帳史料と規約文書の分析を行った。この2地点ではほぼセンサスの撮影を終了し、あわせて「役」の選任をめぐる神社側と村落側の交渉に関する事例データの聞き取りを行った。加えて西日本・東日本各地の頭役制の文献調査をふまえ、現段階での知見を論文「神々と村落のあいだ—頭役祭祀研究の展望—」（同上書所収）として論じた。

(4)これらと並行して、2010年度には沖縄県北部島嶼の村落祭祀や中部地方の芸能祭祀など、宮座に類似する祭祀組織における儀礼系史料の管理の多彩な事例群にも視野を広げることにも試みた。

(5)さらに関東地方では、2010年度に茨城県土浦市博物館の協力のもと、同市田村に伝存する近世宮座の座配・規約史料の撮影を行っていたが、本年度はこれを本格化し、史料の翻刻・分析と現地のヒアリングを複数度にわたって行なった。その中間報告は博物館紀要に寄稿（「常陸国新治郡田村の「十六人当」—霞ヶ浦湖岸村落の近世宮座および座配史料—」『土浦市立博物館紀要』第22号、印刷中）し、今後の議論への布石とした。

以上の調査研究を通して、本研究の始めに想定していた通り、頭役祭祀における役の問題が記帳史料の管理権限やそれに裏付けられた頭役選定権限と関連しているとの見通しが確実なものになるとともに、史料管理をめぐるモノグラフ知見を社寺の宗教的権威づけと村落側の世俗的権威づけの拮抗のモデルで理解することが可能になった。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計5件）

渡部圭一「常陸国新治郡田村の「十六人当」—霞ヶ浦湖岸村落の近世宮座および座配史料—」『土浦市立博物館紀要』第22号、土浦市立博物館、ページ数未定、2012年3月、査読なし

渡部圭一「農具を絵にするとどうということか—四季耕作図のもうひとつの史料学—」『千葉史学』第58号、千葉歴史学会、35～47ページ、2011年5月、査読あり

渡部圭一「書評 真野純子著『宮座祭祀儀礼論』（『京都民俗』第28号、京都民俗学会、223～230ページ、2011年3月、査読なし

渡部圭一「延喜式神名帳の近世的展開—武蔵国四十四座式内社巡拝案内書の成立をめぐる—」『埼玉民俗』第36号、埼玉民俗の会、60～77ページ、2011年3月、査読なし

渡部圭一「「正信偈」読誦における経本と声」『日本民俗学』第258号、日本民俗学会、1～34ページ、2009年5月、査読あり

〔学会発表〕（計10件）

渡部圭一「いまどのような「歴史」が求められているのか—関東村落の歴史民俗学の視点から—」、京都民俗学会設立30周年記念シンポジウム第3弾「民俗研究における歴史的まなざしとは何か」パネリスト、ウイングス京都会議室1・2、2011年10月28日

WATANABE Keiichi, Understanding a Bitter Past: The Case of Bushu Yonaoshi Ikki (A “World Renewal” Uprising in the Bushu Region of Japan)、Diamond Session: The Future of Japanese Folklore: Looking to the Past and Paving New Directions—Emerging Young Scholars Speak、American Folklore Society 2011 Annual Meeting、於：Biddle Hotel and Conference Center, Indiana Memorial Union (Indiana University, Bloomington, Indiana)、2011年10月15日

渡部圭一「頭役祭祀における聖と俗」、日本民俗学会第63回年会、滋賀県立大学、2011年10月2日

渡部圭一「霞ヶ浦湖岸村落における近世宮座の動向—茨城県土浦市田村の「十六人当」と座配史料—」、社寺史料研究会例会、明治大学駿河台リパティタワー7階 1071 教室、2011 年 5 月 28 日

渡部圭一「コメント 神々と村落のあいだ」、明治大学博物館・萩原龍夫旧蔵資料研究会主催シンポジウム「村落・祭祀研究の現在—萩原龍夫・宮座研究とその継承をめぐって—」パネリスト報告、明治大学博物館教室、2010 年 10 月 17 日

渡部圭一「農具を絵にするとはどういうことか—四季耕作図の史料批判をめぐる諸問題によせて—」千葉歴史学会 6 月例会（大会批判報告会）、千葉大学人文社会科学研究所総合棟 2F グラジュエイト・ラウンジ、2010 年 6 月 26 日

渡部圭一「“村落＝社会”を乗り越える」、現代民俗学会第 3 回研究会「「社会」再考—村落研究から展望する新しい社会像—」コーディネーター問題提起、お茶の水女子大学大学本館 2 階 209 室、2009 年 11 月 14 日

渡部圭一「モノと精神史のあいだ—墓地空間のコンテクスト分析—」、日本民俗学会第 845 回談話会「墓制・墓標研究の再構築」パネリスト、成城大学 3 号館 2 階 321 教室、2009 年 11 月 8 日

渡部圭一『「天王祭礼引付帳」と萩原龍夫の近江宮座調査』第 2 回萩原龍夫資料研究会、明治大学アカデミーコモン地下 1 階博物館教室、2009 年 10 月 31 日

渡部圭一「近江湖南における祭祀頭役制の 500 年—“あいまいな宮座集団”を手がかりにして—」京都民俗学会第 225 回談話会、ウイングス京都セミナー室 A、2009 年 9 月 29 日

〔図書〕（計 5 件）

渡部圭一「「産物」認識の可能性—自然・資源・権力をめぐる—考察—」浪川健二編『近世の空間構造と支配—盛岡藩にみる地方知行制の世界—』東洋書院、72～90 ページ、2009 年 5 月

渡部圭一「「名前」の争いの近代—武蔵国式内社における郷土史叙述の特質—」由谷裕哉・時枝務編『郷土史と近代日本』角川学芸出版、148～170 ページ、2010 年 3 月

渡部圭一「モノと精神史のあいだ—石塔史料論の自立をめざして—」（西海賢二・水谷類・

渡部圭一・朽木量ほか『墓制・墓標研究の再構築—歴史・考古・民俗学の現場から—』岩田書院、49～94 ページ、2010 年 10 月）

渡部圭一「神々と村落のあいだ—頭役祭祀研究の展望—」（萩原龍夫旧蔵資料研究会編『村落・宮座研究の継承と展開』岩田書院、2011 年 9 月、43～66 ページ）

渡部圭一「萩原龍夫、近江を歩く—寛文十三年『天王祭礼引付帳』と大宝神社文書—」（萩原龍夫旧蔵資料研究会編『村落・宮座研究の継承と展開』岩田書院、2011 年 9 月、107～126 ページ）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

渡部 圭一(WATANABE KEIICHI)
自治医科大学・看護学部・非常勤講師
研究者番号：21720328

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：